

令和8年度 第1回近江八幡市地域公共交通会議 議事録

1. 日時：令和8年6月29日（月） 14：00 ～ 15：30

2. 場所：近江八幡市役所 本庁舎（新庁舎）4階 第3委員会室

3. 出席者：委員数25名 … 出席者21名 委任状3名

4. 議 題

①協議事項

（1）令和9年度 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について（資料1）……全員承認

（2）令和9年度 地域間幹線系統確保維持計画（案）について（資料2）……………全員承認

（3）監事の選任について（資料3）……………全員承認

②報告事項

（1）市民バスの利用状況及び収支状況について（資料A・B・C・D）

（2）近江鉄道バス WE S T E R ポイント付与率の見直しについて（資料E）

（3）近江鉄道バス 利用促進施策（ガチャフェス・夏休み特別乗車券）について（資料F・G）

（4）令和7年度 近江八幡市地域公共交通会議 監査結果について（資料H）

（5）その他

5. 閉 会

【議事概要】

1. 開会（事務局）

資料確認

【事務局】

会議の出席者は21名で委任状を3枚提出いただいております、半数以上の出席であることから、設置要綱第6条第2項に基づき本日の会議が成立している旨を報告。

2. 挨拶（塚口会長）

交通会議の役割は、様々な施策等について議論をして決めていくということになっていますが、基本は地域公共交通計画の進捗状況を確認し、そして計画を前へ進めていくものであると認識しています。

「昨年度はどうであったか」という評価をし、そこに課題を見つけて「次年度はどうしていくべきか、ここは少し修正していきたい」といった議論しているわけです。

現状を見て次年度どのようにしていくかという、比較的近い将来のことを議論していくわけであって、それは非常に重要なことですが、やはり今後の公共交通のあり方というものを考えてみた場合に、将来を見据える「3つの視点」があると思います。

1つは「このままだこうなる」、もう1つは「こうなったらこうなるだろうけれどもこうしたい」、そして3つ目は「そうであるならこうすべきだ」というもの。

いずれにしても、少し先の将来を見据えた上で今年度、次年度というような近いところの施策の実施方法の評価という視点も必要になっているのではないかと思います。

3. 議事

①協議事項

（1）令和9年度 地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について（資料1）

フィーダー系統補助金は、幹線系統路線との接続によって幹線を補完しているものであり、経常収支が赤字となっている路線が補助対象で、本市では「市民バス（あかこんバス）」と「近江鉄道バスの江頭線」が対象。

資料に基づき、補助金申請計画（案）について説明。

昨年度からの変更点としては、市民バスの車両更新に伴う減価償却費に対する補助金申請分を追加している点である。計画年度は令和9年度から令和14年度。

【意見・質問】

<村北委員>

今年4月に新市長となりましたが、徳永新市長に交通計画の説明はされましたか、また市長が変わられたことで計画の変更はなされませんか。

<事務局>

徳永市長へは市内の公共交通機関全体の状況や、あかこんバスへのDX技術の導入及びダイヤ改正等現状の取組について説明し、了承をいただいている状況です。

⇒議題（１）については、採決の結果、全会一致により承認

（２）令和９年度 地域間幹線系統確保維持計画（案）について（資料２）

地域間幹線系統路線とは、複数市町にまたがり広域的に運行している路線を指しており、本市の作成する同計画では近江鉄道バスの運行する「岡屋線」、「日八線（３系統）」、「八幡アウトレット線」が対象。

資料に基づき、補助金申請計画（案）について説明。

【意見・質問】

特になし。

⇒議題（２）については、採決の結果、全会一致により承認

（３）監事の選任について（資料３）

令和６年度より、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（フィーダー系統補助金）の受領をするためには「地域公共交通会議名」の口座であることが条件となった。

ついては、「地域公共交通会議口座」より現金出納等の管理が必要となることから、資金管理にあたり近江八幡市地域公共交通会議設置要綱９条２項の規定により、監事２名を置くことが必要となっており、監事については委員の中から会長が指名することとなっている旨を説明。

塚口会長より、「近江八幡商工会議所 中西委員」と「近江八幡市 総合政策部長 辻委員」を指名いた

だく。

【意見・質問】

特になし。

⇒議題（３）については、採決の結果、全会一致により承認

②報告事項

（１）市民バスの利用状況及び収支状況について（資料Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ）

事務局より、資料に基づき市民バスの利用状況について説明。

（２）近江鉄道バス WESTER ポイント付与率の見直しについて（資料Ｅ）

（３）近江鉄道バス 利用促進施策（ガチャフェス・夏休み特別乗車券）について（資料Ｆ・Ｇ）

近江鉄道(株)バス営業課長 近藤委員より、資料に基づき各種施策について説明。

【意見・質問】

<森安委員>

昨年度の取組の中で、交通系 IC 決済やバスロケーションシステムの導入をされていますけれども、導入から数ヵ月ではありますが、反響等がありましたらご紹介ください。

<事務局>

昨年度実施した DX 導入ですけれども、内容といたしましては「交通系 IC 決済」、「バスロケーションシステム」、「デジタルサイネージ」、「回数券販売用自動販売機」の導入でございます。

（バスロケーションシステムのチラシを提示しながら…）

導入後は、問い合わせ数の減少や運行状況に対する問い合わせの際には、バスロケを見ながら「あと●●分後にバスが来ますのでもうしばらくお待ちください」のように案内がしやすくなっています。

また、年齢層を問わずご利用をいただけており、まずは導入ができて良かったという風に感じています。一方で、市民バスの利用者には 80 代後半から 90 代という方もいらっしゃる中で全ての方にスマートフォンをご利用くださいとはできませんので、主要なバス停にはデジタルサイネージを導入し視覚的にご利用をいただいていると認識しています。

交通系 IC 決済につきましては、2 月上旬の導入後 6 月末現在で約 3 割程度の方が IC で運賃の支払い

をしていただいている状況であり、確実に現金での収受は減っていることから、適正な運賃収受と乗務員の負担軽減を実現できていると実感しています。

(WESTERポイントのチラシを提示しながら…)

今後は引き続き、様々なDX技術を活用していきたいと考えており、そのひとつとして今年度JR西日本が展開するポイント制度であるWESTERポイントを交付する事業を6月より実施しているところです。

ポイント施策を実施することで、本市市民バスはもちろんのことですが、公共交通機関全体の利用促進を図っていきたいと考えています。

<村北委員>

とあるコースでは、積み残しが発生していることがあると聞いたことがありますが、その実態をどのように把握されていますか。

<事務局>

積み残しにつきましては、各バス車両の方から無線で管理室へ報告をしており、管理室の方から市の担当課へコース、時間、積み残し人数を報告いただいております。報告があった場合は記録をしています。

<村北委員>

定員は14名ですか。

<事務局>

基本的には乗客の定員は12名となり、一部大きいサイズで運行をしているコースについては19名となります。

<村北委員>

対策として、増便等の検討はされていないのでしょうか。

<事務局>

市民バスは1台をひとりで運行していますので、仮に増便となりますと人も車両も増えることとなり、担い手が不足していることから現状、増便は厳しいと考えています。

<塚口会長>

事務局の説明にもありましたが、大変厳しい事情もある一方で、利用する側にとってみれば改善をして欲しいという意見もありますので、アンケート等を活用して課題の把握に努めてください。

(4) 令和7年度 近江八幡市地域公共交通会議 監査結果について (資料H)

近江八幡商工会議所 専務理事 中西委員より監査結果を報告いただく。

【意見・質問】

特になし。

(5) その他

【意見・質問】

<近藤委員>

近江鉄道からご報告とお願いがございます。資料にも記載しましたが、現在、土日祝日を中心に八幡堀周辺をはじめとする観光地へのお客様が非常に増加しております。大変ありがたいことなのですが、一部の時間帯で積み残しが発生する事態となっております。この対応策として、7月25日より当該路線での増便を実施する予定でございます。

ただ、ここで一つ市にお願いがございます。増便は行うものの、特に外国人観光客の方から「乗り場がわからない」「どのバスに乗ればいいのか迷う」というお声が多く、案内不足が課題となっております。駅前のデジタルサイネージの設置や、多言語対応の総合案内看板の整備について、何かお考えがあればお聞かせいただければと思います。

<事務局>

現在近江八幡駅前（北口・南口）には、公共交通会議にて過去に製作をしている「地域公共交通マップ」というものが設置されています。製作をした時点と現在ではバス路線が変更されていたりするため、更新をしていかなければならないと考えております。

昨年、市民バス用のサイネージを導入いたしました。経費的にどれぐらいの費用が必要となるのか、こういったものを表示することができるのかといった実践的な経験を積んだうえで、今後の理想的な形としては公共交通会議で、公共交通マップをサイネージで設置することが良いのではないかと考えております。

しかしながら、設置費用や補助金の対象となるのか等、検討していかなければなりませんし、駅の再編も含めた形にもなろうかと思っておりますので、本件につきましては、今後会議においてご相談をさせていただきながら進めていく案件かと思っております。

<塚口会長>

経費を削減するという方向だけではなくて、お客様がいるというのは大変ありがたい話でもあるので、できるだけ上手く使っていただけるように限られた条件の下ではありますが、交通事業者と市当局でコミュニケーションを図って進めていただければと思います。

<喜多畑委員>

今の補助金のお話に関連して一点情報提供させていただきます。国の方でも、まさに今おっしゃったようなインバウンド向けの観光路線に対する支援メニューや補助事業をご用意しております。多言語対応の案内板の整備ですとか、キャッシュレス決済機器の導入等に活用できるメニューもございますので、要件等に合致するかどうか、ぜひ一度事務局のほうから運輸局へご相談にお越しいただければと思います。

<森安委員>

(公共交通×子どもの学びのチラシを提示しながら…)

滋賀県より、子どもへの公共交通利用促進施策のお知らせ

閉会